

学校自己評価報告書

(平成29年度)

平成30年7月

学校法人電波学園

あいち造形デザイン専門学校 高等課程

学校評価委員会

委員長	鈴木	茂樹	(校長)
総括責任者	竹内	栄二	(教頭)
委員	大崎	英子	(教務科長)
	小室	憲義	(渉外・企画科長)
	安田	英樹	(事務長)
	中島	信幸	(デザイン科主任)
	味岡	晴奈	(校務主任)
	上田	裕彦	(指導主任)
	小島	広行	(学年主任)

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標	P 3
IV	評価項目の達成および取組状況	P 4
	（1）教育理念・目標	P 4
	（2）学校運営	P 5
	（3）教育活動	P 6
	（4）教育成果	P 8
	（5）生徒指導・生徒支援	P 9
	（6）教育環境	P 11
	（7）生徒の受入募集	P 12
	（8）財務	P 13
	（9）法令等の遵守	P 14
	（10）社会貢献・地域貢献	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

I 学校の現況

- (1) 学校名 あいち造形デザイン専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番25号
- (3) 沿革
- | | |
|---------|--|
| 昭和58年4月 | あいち造形デザイン専門学校の前身、名古屋デザイン専門学校を開校 |
| 昭和59年4月 | あいち造形デザイン専門学校高等課程の前身、名古屋デザイン専門学校に高等課程を開校 |
| 平成16年4月 | あいち造形デザイン専門学校の前身、名古屋デザイン専門学校を瑞穂区堀田から千種区今池に校舎新築移転 |
| 平成17年4月 | あいち造形デザイン専門学校に校名を改称 |
| 平成25年4月 | あいち造形デザイン専門学校開校30周年
あいち造形デザイン専門学校高等課程を、千種区今池四丁目13番12号から今池五丁目24番25号に校舎移転 |
- (4) 学科の構成 文化教養高等課程 デザイン科
- (5) 生徒数および教職員数
- | | | | |
|------------|--------|---------|--|
| 生徒数：321名 | | | |
| 教諭数：専任 14名 | 講師 10名 | 事務職員 3名 | |
| 臨床心理士 1名 | | | |
- (6) 施設の概要
- 地上8階、地下1階
- 普通教室 多目的教室 補習室 予備室
- パソコン室 (Windows 室、Macintosh 室)
- 実習室 (平面実習室、デッサン室、絵画・工作室)
- 生徒相談室 進路指導室 生徒ホール 多目的ホール グランド

II 評価の基本方針

- ・学校としての現状における組織的な取り組みや成果を調査し、評価できる点、問題点を整理し、具体的な今後の方策および改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりを目指す。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を教育活動や学校運営の改善につなげる。
- ・評価結果と改善への取り組みを本校公式ホームページに掲載し、広く社会に公表する。
- ・学校評価委員会にて評価を行う。

Ⅲ 教育目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」であり、それに基づき、「実力は努力から生まれる」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員たるにふさわしい資質を育てる。
- (2) 商業・工業デザイナーとして必要な基礎知識および専門知識を十分に教授し、豊かな応用創造力ある専門技能者を育成する。
 - ・本校はデザイン教育を通しての“人づくり教育”を中心に、社会の情勢、変革などを見極めながら、建学の精神を毎日の学校生活の中で指導、実践する。特に、人格向上完成を実現するため、「しつけ教育」つまり、集団生活における基本的な生活習慣の確立に重点を置き、より充実した教育効果をあげるべく努力する。
 - ・建学の精神を「誓いの言葉」として理解しやすくし、毎朝学級にて全員で唱和することで意識付けを明確化させる。また、学習指導や生活指導を徹底し、学習・生活においてそれぞれに五訓を定め、学園生活に不可欠な要素を指導する。
 - ・本校では、報恩感謝の念と責務・責任の観念を体得させるとともに、「愛と礼節」「夢と創造」の校訓を掲げ、学校生活の中で自学・創造の気概・態度を持ち、思いやりと礼節を身につけた、積極的に努力する創造力豊かな人間になるよう教育する。

IV. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○学校における教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 生徒・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
○各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応 する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

- ・創立以来、学校の教育目標・育成人材像は一貫しており、適切な指導をしている。必要な教材、教具、環境を整え、デザインの専門学校として充実した教育を行っており、生徒や保護者からは高い評価を得ているが、デザイン業界や関係企業への就職は依然として険しい。

②今後の改善方策

- ・5か年一環教育を前面に打ち出し、高卒プラス2年のメリットを活用する。

③特記事項

- ・校長が立案する学校目標に沿って、教職員全員が一致協力し、教育活動を行った。また、生徒・保護者に対するアンケートを実施し、学校への関心度を高め、問題点を検証し、見直すべき点を逐次改善した。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

- ・教職員全員がコンピュータを所持し、オンライン上にて様々な情報を共有・伝達しているが、ネットワークのさらなる有効活用を進めたい。

②今後の改善方策

- ・情報教科担当教員を中心に業務の効率化につながるよう、分かりやすいカテゴリ構造を順次構築していく。

③特記事項

- ・特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・専門科目については、修業年限に応じた教育到達レベルを十分満たしているが、普通科目においては、今後も主要教科3科目（国・数・英）の基礎学力向上を図っていく必要がある。
- ・キャリア教育について、進路指導を軸に計画・実施してきたが、多くの生徒は将来の目標設定が明確化されていないため、さらに具体的に外部団体等と連携した教育を行うなどして生徒一人ひとりに意識付けをさせていくことが必要である。
- ・カリキュラムについて、愛知産業大学工業高校と技能連携しているため、頻繁ではないが高等課程の学習指導要領に沿って逐次改善している。
- ・資格取得に関する指導体制は、学習の動機付けや学んだことへの確認の意味でも重

要であるため、各科目の授業の中において整備されている。しかし、授業内の時間のみでは不十分であるため、課外時間帯での補習とともに一層の内容の資質向上が求められる。

- ・関連分野における資質向上のための取り組みは、社会と共に変化するデザイン界に対応する指導力やデザイン関連領域の幅を広げるために、外部の関連団体等の連携による研修の必要がある。

②今後の改善方策

- ・普通科目のレベル向上を目指し、成績不良の生徒に対しては補充授業を、成績向上や大学進学を希望する生徒には補習授業を行っているが、更に強化していく。
- ・キャリア教育では、生徒に意識付けをさせるために、職業講話や卒業生の進路状況を紹介していく。特に就職希望者には面接練習などを実施し、きめ細やかな指導をしていく。
- ・2022年度から実施される新学習指導要領の情報をいち早く収集し、特色のあるカリキュラムになるように研究、準備する。
- ・補習授業への参加を徹底する。過去の出題傾向を詳細に分析し、目標と到達レベルを設定し実施する。また、個別指導の徹底を図る。
- ・各教員がどのような知識・技術を習得する必要があるかを検討し、十分な準備のもと長期休暇を利用し、自己啓発に努める体制を確立する。

③特記事項

- ・授業評価はすべての教科に対して実施している。生徒・保護者アンケートや三者懇談時の保護者の意見、教員の自己評価、管理職による授業評価を行っており、それらを総合して評価する体制を整えている。
- ・成績評価・単位認定に関しては、明文化した評価規定によって定められている。入学ガイダンス時に配付している「スクールガイド」や生徒手帳に掲載され、生徒・保護者に周知されている。また生徒には、入学後に実施されるオリエンテーションでも事細かに説明している。

(4) 教育成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
○資格取得の向上が図られているか	4	③	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
○卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	3	②	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

①課題

- ・模擬面接の練習や指導方法などにより環境は整ってきている。就職希望の生徒であっても進路を決定しようとする意志が弱く、就職活動を行わない生徒もあり、就職率向上の妨げとなった。仕事への理解や自分自身の適性・能力の把握の必要がある。
- ・資格取得については、常に生徒に検定資格取得のメリットを呼びかけて受験率の向上に努めているが、受験希望者の増加につながっていないのが現状である。生徒が、一つでも多く資格を取得できるように、なお一層指導していかなければならない。
- ・退学率の低減については、学校一丸となって取り組んでいる。近年の退学率は5.8%前後であったが、29年度は退学率が9.97%と増加してしまった。退学理由は不登校や精神面での問題が大部分を占めている。特に1年生の退学率が高い割合を占めており、入学当初から環境不適應で登校できず、そのまま退学へと至ってしまうケースが多い。
- ・在校生の動向は十分に把握できている。卒業生については、前年度同様、全体的な実態調査がなされていないため、社会的な活躍、評価について一部しか把握されていない。

②今後の改善方策

- ・就職率の向上について、ハローワークによる「職業講話」、「模擬面接」や「求人票の見方学習」の講習会などが必要であった。早期からの定期的、継続的な指導を重ねることで、就職率の向上を図る。
- ・資格取得においては、関連する教科指導者が生徒個別の状況を綿密に把握し、受験の意義を理解させ、合格に向けて計画的に補習を立案・実施し、合格者数の向上を目指す。
- ・退学率低減に向け、今後も引き続き、生徒を多面的に理解しつつ柔軟に対応していく。毎朝、校長をはじめ、教員、生徒会役員、風紀委員が挨拶運動をしながら声かけを行い、生徒の日常の生活態度に目を配る。また、毎週チュートリアル会議を開き、生徒の状況を全職員が把握し、家庭の状況を理解した上で、家庭訪問等を実施

し、家庭との連携を密にしながら、早期に学校生活を営むことができるように導く。

- ・卒業生の社会的な活躍および評価について、現在は複数年かけて状況把握体制を整備している段階であり、今後は情報提供を活性化させ、その情報を一元管理する体制に努めていく。

③特記事項

- ・一部の卒業生の社会的活躍は把握しており、在学生に対して講演依頼をしたり校内に作品展示をしたりして広く紹介している。

(5) 生徒指導・生徒支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○基本的な生活習慣の確立のために取り組んでいるか	4	3	2	1
○進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	④	3	2	1
○生徒・保護者からの相談体制が組まれているか	④	3	2	1
○生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1

①課題

- ・基本的な生活習慣については、入学時に「スクールガイド」を規範とした指導を実施し、保護者の理解を得て、学校生活も含め基本的な生活習慣が身につくように指導しているが、生活環境などの違いにより苦慮している。

②今後の改善方策

- ・生徒の多様化が進む中、規律・マナーを守る生徒を育てるという点で、全体では校内巡回や挨拶運動、生活自己点検のアンケートを実施するなど、地道な取り組みを継続する。個別には、生徒の心身の状態、家庭状況を把握した上で、生徒面談等を実施し規範意識を高めていく。

③特記事項

- ・進学・就職指導にかかる支援体制は、進学(美術系大学・一般大学・専門学校)、就職それぞれの担当者をおき、クラス担任が中心となり、教頭、科長が連携する体制で進めている。進路に対する早期意識付けとして、2年次、3年次の進路説明会、進学指導や、早期からの定期的で継続的な就職指導を実施している。進路指導において個別カウンセリング、模擬面接など受験対策の実施、また、日本学生支援機構などの奨学金制度利用に対してのサポートなどを行い、希望の進路を可能にするよう支援している。
- ・生徒・保護者からの相談体制は、全生徒対象に夏休み前に三者懇談を、2年生には3学期に進路説明会を実施している。また日常的には、必要に応じて学級担任が保護者に電話や文書で連絡を取ったり、面談や家庭訪問を行ったりしている。さらに、担任以外にも相談できる体制を取っている。
- ・経済的支援については、恒学基金奨学制度にて経済的に困難な状況にある生徒に対し、学内での審査をした上で最高30万円を貸与している。授業料等納入についても保護者の相談に応じ、進級または卒業までの納入計画を提案している。本学園として、高等課程特待生奨学金制度、特別奨学金、姉妹校進学時の減免制度を引き続き実施している。民間の学費サポート制度も金融機関等と提携することで支援制度を拡充している。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

①課題

- ・東海地方で起こり得る巨大地震に備え、緊急時対応マニュアルを作成する必要がある。危機管理体制の見直しも必要としている。防災備蓄品は平成29年度に購入しているが、帰宅困難者を考慮すると、充実しているとは言えない状況である。

②今後の改善方策

- ・緊急時対応マニュアルの作成が必要であり、教職員に向け減災教育も実施していく必要がある。また、緊急時に備えAEDの使用について、教職員で研修していくことも計画しなくてはならない。

③特記事項

- ・インターンシップにおいては、生徒の年齢的な問題や安全面、また、受け入れ側の確保などの問題や、本校の大部分の生徒が進学希望であることなどを総合して、実施していない。学外実習施設については、最新の情報を取り入れ、社会の動きに応じた内容の見直しを図る。

海外研修等では、平成27年度から台湾への修学旅行を実施しており、故宮博物院での鑑賞、大学訪問、体験学習など、文化や生活に触れることで、見聞を広めるとともに台湾での体験を、学びの深まりにつなげるものとして有意義な修学旅行となっている。今後も幅広い視野や知識を取得するために、見学地や内容を吟味していく。

- ・東海地方で起こり得る巨大地震等の災害に備え、危機管理体制を常に見直し、飲料水・食料及びレスキューシート等の備蓄品を整備して対応している。

(7) 生徒の受入募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○生徒募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

- ・特になし。

②今後の改善方策

- ・特になし。

③特記事項

- ・学納金については、同種他校の動向を見ながら毎年妥当であるかを検討しているが、特に問題はなく妥当な金額となっている。今後は、社会情勢を踏まえ検討していく必要がある。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

- ・財務基盤は、借入金等の負債はなく、資金流動性に富んでおり、堅固な基盤を有していると言える。昨年と比べても在籍数が若干増加している。教育活動収入も増加しているが、人件費率が必ずしも良いとは言えない。安定した入学生確保が重要となる。予算・収支計画は、学内において担当部署が立案する事業計画に基づいた特別予算、一般予算の算出及び学生生徒収容計画書により収入予定案を作成しており、一般予算については配布予算内での実施が可能となっているが、未計上の目的別予算もあり、より計画を詳細にしていく必要がある。

②今後の改善方策

- ・本校の安定した財務基盤について、中長期的な視点に立った学内組織の変更、教職員の構成の見直しの継続、事業内容を含めた見直しの実施、経費節減等の施策を実施し、徐々に人件費率を改善していく。予算・収支計画を有効的にするにあたり、定期的に予算委員会を実施し、教務（教員）も参加している。目的別予算を導入、課程別の予算・収支計画を作成することにより、教職員全体で経費節減も含め共通認識として取り組んでいく必要がある。

③特記事項

- ・会計監査は、毎年1回、公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。
私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て、法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園のWebサイトにて毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

- ・生徒・保護者へのアンケートを踏まえた自己評価を実施している。問題点を確認し評価の妥当性、整合性の向上に努めているが、進捗速度は速いとは言えない。

②今後の改善方策

- ・理事長・校長の指導のもと厳格に法令遵守を行う。

③特記事項

- ・個人情報に関しては、個人情報保護法第18条等に基づき、入学ガイダンス時に「個人情報の取り扱いについて」の文書を配付、周知し、文書をもって承諾を得ている。また、パンフレット、ホームページなどで取り扱う際には、生徒・保護者へ再度確認し、承諾を得ている。
- ・生徒・保護者へのアンケートを踏まえた自己評価を実施し、評価の妥当性、整合性の向上に努めている。また、客観的視点での評価を得るための学校関係者評価委員会の体制が徐々に整備されてきた。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
○生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

- ・教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は、提供できる施設が少ないため十分行うことができない。
- ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、依頼があれば積極的に受け入れを行うが、現在のところ委託が少ない。

②今後の改善方策

- ・施設を活用した社会貢献においては、依頼があれば柔軟に対応していく。
- ・地域に対する公開講座・教育訓練については、受身の体制ではなく前向きに考えていく。

③特記事項

- ・施設を活用した社会貢献・地域貢献は、試験会場としての貸し出しを行った。
- ・生徒のボランティア活動は、生徒会活動の一環として地域の社会福祉協議会と連携してイベントスタッフとして参加したり、ペットボトルキャップ回収運動による世界の子供へのワクチン支援のための募金、赤い羽根共同募金、学校祭時におけるバザー売上金を募金したりするなど、活発に運営した。また年1回、全生徒が地域の清掃活動を行ったり、献血に協力したりした。活動に関しては、授業に支障の無いように、また安全面に配慮して、教員が生徒を管理し指導にあたっている。
- ・平成27年度から、地域の社会福祉協議会主催による幼児対象工作教室の企画運営を行っている。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本文中に記載したように「学園の建学の精神」や「理事長の方針」をうけて全教職員が一丸となって目標や計画の遂行にあたっている。また、法人事務局職員・各校所属長・各校管理監督者が出席する合同会議において、昨年度の振り返りや本年度の目標・計画を発表し、その実現に向けて日々努力している。さらに、年間数回、理事長をはじめとする法人事務局職員と現場の教員による協議会を実施し、年度の中間報告を行い、その進捗状況を確認している。

学校評価の結果としては、おおむね合格点に達している。「面倒見の良い学校」「開かれた学校づくり」の視点に立ち、改善へ向けて取り組むという意識が教職員に浸透していると考えられ、学校としての組織的な姿勢が確立しつつあるといえる。

専修学校高等課程は社会生活に即応した、柔軟で実用的なカリキュラムにより高度な専門的技術・技能の習得を目指し、後期中等教育機関として重要な役割を担っている。そのためには、技能連携先の愛知産業大学工業高校と協議を重ねていくことでより充実した教育内容が確立され则认为している。

教職員はさらに教育力を高め、自らを自己点検・自己評価し、また所属長、管理監督者からのフィードバックの結果を真摯に受け止め切磋琢磨する。常に使命感をもって邁進することが大切であり、今後もさらなる教育水準の向上を図り、社会から喜ばれ歓迎される人材の育成に向けて鋭意努力していく。

●学校運営

- ・生徒数の確保は大きな課題である。各担当者による中学校訪問によって理解を一層深めるとともに、愛知県専修学校各種学校連合会との連携を深め、学校としての貢献活動も発展させながら、本校の教育活動への理解を広めるとともに、生徒募集活動の充実を図っていく。
- ・生徒募集活動の強化の一環とし、受験直前の見学会においては、入試受験科目でもあるデッサンの対策講座や、学校祭の見学等、変化に富んだ取り組みを行い、好評価を得た。今後も他校との差別化や本校独自の運営を計画し、出願率を上げる。
- ・平成29年度も引き続き「AZD 中学生デザイン・絵画コンテスト」を実施し全国から644点の応募があり、広報活動の一環として認知されてきた。
- ・専門課程の2か年教育へとつながる「5か年教育システム」と、芸術系を中心とした大学進学を軸に、卒業後の専門分野への就職を可能とする他に類を見ない本校独自の優位性をアピールする。

●学習指導

- ・普通科目では、「全員参加の授業」を目標とし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、授業の活性化を図る。
- ・落ち着いた雰囲気の中で授業が進められており、生徒はのびのびと学習、実習に取り組むことができている。

- ・座学をしっかりと行い基礎的・基本的な学力を身につけさせ、思考力や実践力を身につける教育を行う。
- ・デザイン・美術の基礎を幅広く学び、将来につなげることができるように常に授業内容を見直し、社会のニーズにあった授業を展開していく。
- ・専門科目では、生徒の自己実現達成のため、公募参加をはじめ、工夫ある取り組みを展開していく。
- ・「21世紀型能力」の根幹である基礎力・思考力・実践力を育むことができるように、より主体的・対話的で深い学びを目指し、教師自身が授業のあり方を研究し、自己の資質向上に努める。

●進路指導

- ・平成29年度の卒業生の進路は、大学・短大・専門学校への進学率が83.9%、就職率6.5%、その他9.6%となった。前年度と比べると、進学率が上がり、就職率が下がった。進学のうち、特に大学進学率が全体の24.4%となり、これまでにない率となった。全体として就職よりも進学意欲が高まったことと言える。その他の9.6%は、前年度比でやや減少している。しかし、合格を得ても学費が用意できずに断念せざるを得ない者がいたことや、就職希望者で内定を得ることができないまま卒業した生徒がいたこと、また、出席が常でないなど、学校生活そのものに問題があり、進学も就職も希望しない者がいた。保護者に対して早い段階での説明会参加、また進学先の諸経費などを把握する必要がある。また、就職における心構えなどを指導することや家庭やハローワークとの連携をとることはもちろん、基本的な生活習慣の確立を目指す必要がある。
- ・進路説明会の日程・内容の見直しにより、生徒が自己の将来について具体的に考える機会をつくとともに、オープンキャンパスや企業見学に参加することをはじめとした探求的な学習を通して生徒の進路意識を高揚させ、また保護者の理解と連携のさらなる強化を図る。

●生徒指導

- ・不登校経験者や発達障害、持病を抱えた生徒など、特定の生徒の遅刻、欠席過多に対して、個別対応や保護者との密な連絡や相談、臨床心理士との連携などを強化する。
- ・保護者との連携強化を図り、生徒の生活上の諸問題等についても家庭と共有することで退学低減に努めていく。
- ・スマートフォン、携帯電話の校内持ち込みルールの徹底し、登下校時の使用マナー、インターネット・SNS利用についての指導を強化する。
- ・特別活動や作品公募への積極的な参加を促進し、成功体験を持たせる。